



ふたつの火口散策路

ガイドマップ

洞爺湖町

西山山麓火口散策路

金比羅火口災害遺構散策路

2000年の噴火映像は火山科学館で!

散策路を歩いて学ぼう!

ここまでの、みち

洞爺湖温泉と火口散策路の地図です

●2階 洞爺湖サミット記念館 洞爺湖観光情報センター (一社)洞爺湖温泉観光協会 洞爺湖町役場温泉支所
●1階 道南バス 洞爺湖温泉ターミナル

洞爺湖文化センター 洞爺湖温泉公園 噴水広場 洞爺湖サミット宣言の地 洞爺湖ビジターセンター 火山科学館 遊歩道(全長1.8km) 遊覧船乗り場

至聖和祈山 薬師の湯(手湯・足湯) 洞爺湖温泉街

お気軽に お立ち寄り ください!

北口 ① 西山山麓火口散策路
南口 ② 金比羅火口災害遺構散策路

洞爺湖温泉 洞爺湖 有珠山 昭和新山

内浦湾(噴火湾) JR洞爺駅 道央自動車道 虻田洞爺湖IC

200m

洞爺湖町洞爺湖温泉への交通

- JR室蘭本線利用
JR札幌駅より、特急利用で約1時間40分
JR函館駅より、特急利用で約1時間40分
(JR洞爺駅下車、バスで約15分)
- 乗用車利用
【道央自動車道】
虻田洞爺湖ICより約15分
【一般道】
札幌市より、国道230号で約2時間10分
室蘭市より、国道37号で約1時間
函館市より、国道5号で約2時間45分

洞爺湖観光振興課 TEL(0142)75-4400
(一社)洞爺湖温泉観光協会 TEL(0142)75-2446

洞爺湖有珠山ジオパーク

ジオパークとは、地球の歴史を物語る重要な地質現象や、考古学・生態学的に価値のある見どころがある地域のこと。伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町を含む洞爺湖有珠山ジオパークは2009年に日本初の世界ジオパークに認定されました。

真狩村 留寿都村 伊達市 大滝区 壮瞥町 伊達市

洞爺湖 有珠山

ジオパーク 検索

●散策路についてのお問い合わせ

洞爺湖町観光振興課 TEL(0142)75-4400
(一社)洞爺湖温泉観光協会 TEL(0142)75-2446

まず、はじめに

洞爺湖町には、2つの火口散策路があります

にしやま さんろく かこう さんさくろ 有珠山の北西山麓火口群跡に作られた全長1.8km、南北に延びる散策路(周遊路ではありません)。水没した旧国道、2000年にできた噴火口など自然の脅威を実感できます。

①西山山麓火口散策路

●開放期間/4月20日~11月末
●開門時間/7:00~18:00
●交通/JR洞爺駅より北口までバスで15分、「西山火口停留所」下車 洞爺湖温泉バスターミナルより北口までバスで3分、「西山火口停留所」下車 洞爺湖温泉バスターミナルから北口まで車で5分

こんびら かこう さいがいらいこう さんさくろ 噴火災害を次世代に伝えるために、被災状態のまま保存された建物を見ることが出来ます。周遊は徒歩30分ほどですが、足を伸ばせば2000年にできた2つの火口を見ることが出来ます。

②金比羅火口災害遺構散策路

●開放期間/4月20日~11月10日
●開門時間/7:00~18:00 (10月・11月は~17:00)
●交通/洞爺湖温泉バスターミナルより徒歩5分

※どちらも無料で見学できます



わたしたちは、噴火を体験しました。2000年の有珠山噴火。そのとき、町民たちは?

この町に生まれ育ち60余年。私は1977年と2000年の噴火を体験し、噴火災害の恐ろしさから避難することの大切さを実感しました。この経験から、必ず訪れるであろう次の噴火に備え、有珠山の特性を理解し、地域防災力の向上を図るとともに、火山活動が作りあげた観光資源の魅力発信のため、ガイド活動を行っています。



洞爺湖町在住 洞爺湖有珠山火山マスター 荒井 勲紀さん

2000年噴火のとき、私は小学5年生でした。1週間程度で家に帰れると思っていましたが、小学校体育館での避難生活は約3カ月間にわたりました。火山灰で汚れた空気、避難所での慣れない生活、クラスメイトとは離れ離れ。学校で学習しており、噴火の知識はあったものの、不安な日々を過ごしたことを覚えています。



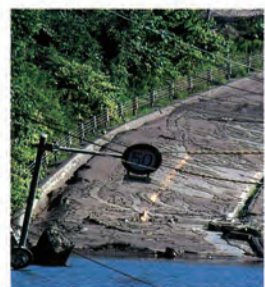
洞爺湖町在住 団体職員 竹澤 未来さん

2000年、有珠山噴火の全貌

まだ記憶に新しい有珠山噴火。あなたは覚えていますか?



2000年3月27日より群発地震が発生し、有珠山の地殻変動が始まりました。火山噴火に近いということが明確に周知され、1市2町の1万5,815人(内、虻田町9,935人)が避難しました。有感地震が減少してきた3月31日午後1時7分、西側の「西山」山麓でマグマ水蒸気爆発が発生。噴煙は風に乗れ、高度2,500メートルまで上昇しました。噴煙は北東方向に流れて洞爺湖畔を中心に広い範囲に灰を降らせました。



翌日の4月1日午前11時40分頃には、有珠山の北西側にある「金比羅山」山麓でも噴火が始まりました。噴火口からは噴煙や噴石が噴出。国道を含む広い範囲で降灰が観測され、人頭大の噴石が火口周辺の建物に被害をもたらしました。マグマに熱せられた地下水が水蒸気爆発を起こし、金比羅山斜面の流路溝に熱泥流が流出。この熱泥流は橋や建物を直撃し、大きな被害をもたらしました。被害が予想される地区の住民は避難していたので、この噴火による死者はありませんでした。

誕生から今日まで「有珠山噴火史」

過去100年間に繰り返された火山活動の記録

有珠山は洞爺カルデラの南にできた火山で、その活動の始まりは約2万年前と考えられています。それまで富士山のような形をしていましたが、約7,000~8,000年前に頂上が崩れ落ち、海まで流れ下りました。数千年の長い噴火休止期間を経て、1663年に活動再開。以来、2000年の噴火まで9回の噴火がありました。20世紀の100年間では4回の噴火が記録されています。

- 1910年(明治43年)北山麓から噴火
1910年7月の噴火では、45個以上の火口が北山麓の広い範囲にできました。この活動により「明治新山」(四十三山)と現在の洞爺湖温泉が誕生しました。
- 1944年~45年(昭和19年~20年)東山麓から噴火
1943年12月から1年以上にわたって火山活動がありました。現在の「昭和新山」はこの噴火により形成されました。
- 1977年(昭和52年)山頂から噴火
1977年8月、山頂から噴火が始まりました。噴煙の高さは最高1万2,000メートル。道内広域に火山灰が降り注ぎ、農作物に大きな被害をもたらしました。
- 2000年(平成12年)西山山麓から噴火
前回の噴火から23年目の2000年3月31日午後1時7分に、有珠山の北西「西山」の麓から噴火。4月1日には洞爺湖温泉街から至近の「金比羅山」に新たな火口を開け、噴火口は合計60力以上でできました。地元住民は既に避難が完了しており、直接的な人命の被害はありませんでした。

自然の脅威を伝えるため、2000年の有珠山噴火の災害の様子をそのまま残した「西山山麓火口散策路」が2002年に整備されました。2005年には洞爺湖温泉街からほど近い「金比羅火口災害遺構散策路」が整備され、訪れた人々に火山活動を伝える重要な役割を果たしています。

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館

3面マルチスクリーン・振動・重低音で、有珠山噴火を体験!



洞爺湖町立「火山科学館」は、洞爺湖の自然を楽しむために必要な情報を提供する支笏洞爺国立公園「洞爺湖ビジターセンター」に併設されています。2000年の有珠山噴火を中心に、有珠山の歴史や噴火のメカニズム、被害の実態や防災の方法などを、写真・模型・映像・体感装置などで学習することができます。


- 開館時間 9:00~17:00(12/31・1/1は休館)
- 入館料(協力金) 大人600円・小人300円 (団体15名以上10%OFF)
- ※「洞爺湖ビジターセンター」は入館無料
- TEL(0142)75-2555

火山科学館 検索



[西山山麓火口散策路]・[金比羅火口災害遺構散策路] **みどころポイント**

1 西山山麓火口散策路「第1・2展望台」



展望台周辺には高温の地熱帯が広がっており、危険なので散策路外に出ることはできません。第1展望台付近には、水道工事中に噴火が始まったために、そこに残り残された重機と水道管が確認できます。第2展望台からは、遠く洞爺市街や内瀬湾(噴火湾)を見渡せます。

4 金比羅火口災害遺構散策路「やすらぎの家」




金比羅山斜面の流路溝から溢れた熱泥流は周辺に流れ出し、噴火の前年に改装したばかりの町営公共浴場「やすらぎの家」を直撃しました。1988年に建てられた「やすらぎの家」は、地元の人たちの憩いの場・観光客との交流の場所として利用されていました。1階部分の内部奥まで、泥流に埋め尽くされています。

2 西山山麓火口散策路「隆起して断層化した町道」




階段状になった道路の段差は、いずれも正断層の落ち込みで生じた地溝(グラベン)で、大地の著しい隆起のために地表が引っ張られて割れ、陥没してできたものです。1977年の有珠山頂上噴火の際に避難路として作られた町道泉公園線は、約70mも隆起してしまいました。

5 金比羅火口災害遺構散策路「木の实橋」



斜面を滑りおりた熱泥流は、泥流対策のために設置された流路溝内からも溢れ出し、国道230号に架かっていた「木の实橋」を持ち上げて約100メートルも押し流しました。流された橋は公営住宅「桜ヶ丘団地」の2階部分に激突しました。熱泥流は、その後、洞爺湖温泉小学校にも流れ込みました。

3 西山山麓火口散策路「被災した建物」



地殻変動による地盤隆起や地割れで歪んでしまった製菓工場、倒壊した民家や折れた電柱などが、散策路に沿って次々に現れます。噴石の直撃を受けた幼稚園は、屋根に無数の穴があきました。一瞬で人の暮らしを奪う噴火のすさまじさを目の当たりにできます。

6 金比羅火口災害遺構散策路「桜ヶ丘団地」



火口から溢れ出した熱泥流によって、3棟5階建ての公営住宅「桜ヶ丘団地」の1階部分は埋もれてしまいました。この周辺で生活していた203世帯378人は、流れ込んだ泥流で家財道具を取り出すこともできない状況になりました。

西山山麓火口散策路ご利用の注意

- 西山山麓火口散策路は、周遊路ではありません。
- 危険ですので、木道・ロープ柵からは出ないでください。
- サンダル・ハイヒールなどは、事故につながる可能性があります。
- 雨のあとは散策路が滑りやすくなっています。足元に注意してください。
- ここでの事故は、すべて自己責任となります。十分、ご注意ください。
- ここは支笏洞爺国立公園内です。石・植物は採集できません。

ふたつの散策路をつなぐ道

7 「有くん火口」



この火口は、2000年の噴火で金比羅山周辺にできた最大の火口です。火口の直径は約200mあります。池の水量に季節変化があり一定ではないのですが、柵から水面までの深さは20m位、池の深さは最大で10m位あります。水がエメラルドグリーン色なのが特徴です。

※フットパス「金比羅と西山コース」は、全長2,250メートル(約90分)
 ※上記イラストマップ中のルートマーク【T-1】から【T-4】は約20分、【T-1】から【T-4】は約10分、【T-5】から【T-10】は約60分